

Active Fukushi

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会

第13号

●高齢者施設福祉部会 広報誌

アクティブ福祉

平成25年5月20日 発行

高齢者施設福祉部会ホームページ

<http://www.tcsw.tvac.or.jp/php/kourei/Kourei.php>

または **高齢者施設福祉部会** で検索



SPECIAL REPORT

スペシャル
レポート

キッチンの見える化

～見せることへのこだわり～

フェローホームズ (立川市)

表紙写真：フェローホームズの「外から見える厨房」手を振るスタッフ

CONTENTS

アクティブ福祉 第13号

- スペシャルレポート キッチンの見える化 1
- 「アクティブ福祉 in 東京 '13」発表者募集 3
- 福利厚生情報かわら版 あくていぶ福利 3
- 職種リレー 栄養士
「食事で笑顔に」 4
「ご利用者と笑顔と愛情で結ばれる食事提供」 5
- 特集：介護キャリア段位制度実証事業に参加して 6
- 職員研修 Hop Step Jump 8
- 養護分科会 9
- 軽費分科会 10
- 平成 25 年・26 年度専門委員長等紹介 11
- 健康問題 11
- 介護最前線／編集後記 12

スペシャル
レポート

キッチンの見える化

～見せることへのこだわり～

フェローホームズ (立川市)



外から見て、入りたくなる施設を目指しています

●見せることへのこだわり

2012年5月に開設したフェローホームズ増築棟「森の家」は、従来の高齢者施設の常識を覆す工夫をとり入れており、外から見える厨房はその一つです。

地域から見られることを意識し、厨房のしつらえや、スタッフのユニフォームも細かく配慮しています。ともすれば裏方的に位置付けられる厨房ですが、我々をご利用者の生活を彩る一番大切なものと位置付けています。その期待に応えて質の高いメニューの提供や、地域への出前講座等、熱意のある取り組みが好調です。「食」に対するこだわり、フェローホームズのブランドの一つです。

(経営企画室 藤谷佐斗子)

●「可視化」がポイント

新調理システムを導入した厨房では、真空調理^{*1}やクックチル^{*2}を活用し、計画調理を行っています。例えば、ご利用者やご家族との懇談の食事会といった行事食は、3日前から計画的に調理を組み込みます。そうすることで、様々な種類の料理をイベント当日でも、特に人員を増やさずに提供でき、時間と人員を上手に活用することが可能になります。

示された分量の調味料と手順書に沿って計画的に作業を進めるため、料理の腕の差がなく、安定した食事を提供することが可能になります。栄養価を逃さない調理法のため、高齢者に多い塩分の制限が必要な食事でも、美味しい食事が提供できるようになりました。

環境も調理法も「見える」ことによって、スタッフ間の衛生面や安全面での共通意識の向上に結びついています。

(栄養課 管理栄養士 関口香織)



スタッフのやる気が、「食」の意識を支えます



真空パックなので、中身がよくわかります

気持ちが、上がります!

外の景色が分かる大きな窓によって、陽射しはない(北向きなので)ものの、外の晴ればれとした天気や空の様子、木々の緑が目に見えるようになり、以前の「密閉された・閉ざされた空間」という感じがしていた厨房が、「解放された・開けた空間」に変わったように思います。また、常に外から見られるという意識が、職員のモチベーションアップにつながっていると感じています。(厨房スタッフ小平)

※1 「真空調理」……食材と調味料を専用袋に入れ、真空パックにして加熱する調理法。真空にすることで浸透率が高まり、食材の持つ特性を活かした、安定した料理が可能となる。

※2 「クックチル」…加熱調理した食品を短時間で急速冷却して冷蔵保存し、提供時に再加熱するシステム



第8回 高齢者福祉研究大会

「アクティブ福祉 in 東京 '13」 実践研究及びポスターセッションの発表者募集

第8回高齢者福祉研究大会「アクティブ福祉 in 東京'13」における実践研究及びポスターセッションの発表者を募集します。利用者サービス向上の取組みであれば、ご自由にご応募下さい。また、共同研究発表も可能です。

実践研究発表

パワーポイントを使用し、一人あたり発表時間15分、質疑応答5分程度で研究内容を発表します。

ポスターセッション

取り組み内容をポスターにまとめ、会場に掲示します。参加者はポスターを自由に見回ります。発表者がポスターの脇に待機して、内容の紹介や補足をしたり、参加者の質問に答えたりすることもできます。

その他

5月8日(水)に応募者を対象とした「抄録記入に関する研修」を、7月24日(水)に発表決定者を対象とした「発表事前研修(仮)」を計画しています。沢山のご応募をお待ちしております。

※詳細は、「アクティブ福祉 in 東京'13 発表者募集要項」をご覧ください。募集要項は「高齢者施設福祉部会」ホームページの最新情報に掲載されています。

日程：平成25年10月3日(木) 9:20～17:00

会場：京王プラザホテル(新宿区)

応募対象：東社協 高齢者施設福祉部会・センター部会会員施設従事者またはボランティア

備考：発表者は大会への参加申し込み(参加費6000円)が別途必要となります

問い合わせ：東京都社会福祉協議会 福祉部 高齢担当

TEL：03-3268-7172 FAX：03-3268-0635

ホームページ：<http://www.tcsw.tvac.or.jp/php/kourei/Kourei.php>

「高齢者施設福祉部会」で検索

アクティブ福祉実行委員会(研究発表WT)

「オリジナルスニーカーで健康的に仕事しYo!」

福利厚生情報がわら版

あくていぶ福利

●特別養護老人ホーム マイライフ徳丸 施設長 高麗正道(こうまさみち)

社会福祉法人北野会は、平成15年開設で、マイライフ徳丸1施設を運営しております。そこでは、特養をはじめ8事業を展開し、平成25年4月現在で111名の職員が在籍しております。

当法人では、職員の健康管理や感染症対策、労働環境衛生の向上を目的とし、各種規程の見直しや課題の検討を行なう環境委員会を設置しております。メンバーは、各事業所から1名ずつ参加し、管理部係長の広崎を中心に活動しております。

平成24年度は、健康づくりの中で2つの大きな取り組みを行ないました。

1つ目は、「腰痛対策サポート」です。腰痛予防のための物品購入費用について5,000円を上限とし、施設が負担するという仕組みです。これは、

職員21名が申請をし、95,825円の費用が腰痛予防のために使われました。

2つ目は、「健康維持サポートのオーダーズニーカー」を企画しました。これは、健康診断において、当法人職員の肥満等の数値が東京都平均に比べて高かったため、この数値が前年対比で低下した職員に「NIKE iD」にて「Mylife 2012」と印字されたオリジナルスニーカーをプレゼントするというものです。2012年では3名の職員がその候補となり贈呈されました。



食事で笑顔に ～言語聴覚士の指導を受けて～



●社会福祉法人武蔵野 特別養護老人ホームゆとりえ 管理栄養士 本山由美子

私の勤務する「ゆとりえ」では4年前から週に1回言語聴覚士に来ていただいています。入居者お一人おひとりに合った姿勢や介助方法、食事形態・量などを丁寧に指導して頂くようになり、誤嚥性肺炎で入院される方が減少しました。そして栄養士・厨房スタッフ(委託業者)はその方にとってどんな形態や食材が食べにくくて危険なのか、あるいは食べやすく安全なのか、まだまだ勉強途中ですが分かってきたところです。

言語聴覚士に見ていただいた入居者様の多くは食事形態を一段下げたり、ハーフ食に変更になりましたが、一方では柔らかいものなら形あるものを提供できた入居者様もいらっしゃいます。この方は入所当時からペースト食を召し上がり、おかずやお粥をぐるぐると混ぜてから時間をかけて召し上がられていました。ご本人からは「味のことはあまり気にして食べたことはない」と言われ、一品ずつ食べていただきたいけれどご本人の自由に食



やわらか太巻き

べていただく方が良いのかな、と思いながら見ていました。

1ヶ月後、言語聴覚士評価の下、魚や肉はペースト食からソフト食に変更するとお皿の中でぐるぐると混ぜることなく召し上がられました。4ヶ月後選択食で太巻きを選ばれたため、具材のムースとゼラチンご飯、刻みのみで調理した太巻きをお出ししました。すると、添えの甘酢生姜のゼリーとともにスプーンですくい一口ずつ味わうように「美味しい」とすべて召し上がられました。

その方は現在も時々食事を混ぜることは見受けられますが、このような変化が見られたのは言語聴覚士の細かな観察と私達へのご指導、栄養・厨房スタッフへの励ましの言葉があったからだと思います。これからも入居者様それぞれの状況に沿った食事を提供し、穏やかに楽しい生活を食から支援していきたいと思えます。



94歳、今でもすべてご自分の歯です！

ご利用者と笑顔と愛情で 結ばれる食事提供



●社会福祉法人パール パール代官山 栄養・調理センター センター長 玉置美代子

特別養護老人ホームパール代官山では、ご利用者の要望にお応えしたい、という思いから平成17年3月より現在に至るまで定期的なイベント食を実施しています。

イベント食とは、厨房職員がご利用者の目の前で調理を行い、できたての様々なお料理を召し上がって頂くご家族参加型のイベントです。

実施に至ったきっかけは、「にぎり寿司が食べたい」と多くの要望が聞かれていたからでした。集団給食におけるにぎり寿司の提供は正直、衛生面を考慮すると怖いという思いがありました。しかし、施設に入所したことにより、自分の好物が食べられないのはどうなのか？自分自身に置き換えて考えたのです。とても不甲斐ない気持ちになりました。施設と家庭の食事に違いがないように、どうしたら安全にご利用者の要望にお応えできるのか、とても悩みました。

そこで思い浮かんだのが、目の前でお寿司を握って、その場で召し上がって頂ければ、衛生的で安全なものが提供できると思えました。まずは、実施計画を立案、理事長・施設長に相談しました。すると両人からも、快い



洋食イベントでのひとコマ

回答でした。実施するには、施設管理者の理解や他職種との連携も必要となってきます。皆から、快く協力体制を得ました。

厨房職員もご利用者を目の前に調理することが始めてであり、とても緊張しました。しかし、スタートと同時にご利用者の反応を直接、目でみることによって喜んで頂けたことを感じとれたのです。ご利用者の中には感動して涙を流される方もありました。ご家族からは「昔みたいに、皆で食事ができる幸せを再確認しました。」とおっしゃって頂きました。参加者の方々には、とても有意義な時を過ごして頂く事ができました。

私達は、ご利用者と触れ合うことによって、改めて施設における食事提供の重要性を認識し続けています。

私は、特別養護老人ホームパール代官山に入職して15年目になりますが、これからも利用者視点に立ち、毎日の食事がその方にとって口からとれる最後になるかもしれない、ということを念頭に、栄養士として1つでも多くの要望に答えられるよう、見て美味しい・食べておいしい・安心安全な食事提供を目指していきたいと思っています。



寿司イベントの様子

特集

介護キャリア段位制度 実証事業に参加して

社会福祉法人 至誠学舎立川 至誠特別養護老人ホーム

園長 吉上 恵子

はじめに

キャリア段位制度とは、内閣府が現在進めている「実践キャリア・アップ戦略」の1つで、介護が対象業種の1つとなっています。事業所毎に異なる職業能力評価に、共通のものさしを導入することで、成長分野での人材育成を目指すことが国のねらいです。「わかる」(知識)と「できる」(実践的スキル)の両面を評価することで、既存の資格制度や研修で不足していた「実際にその現場で何ができるのか」という部分を補うものとしており、介護分野では特に実践的スキルについて重点的に評価するとしています。

〈介護キャリア段位制度イメージ図〉

内閣府発行実践キャリア・アップ戦略
分野別パンフレットより

	分野共通の考え方	介護プロフェッショナル
LEVEL 7	その分野を代表するトップ・プロフェッショナルの段階	
LEVEL 6		
LEVEL 5	プロのスキルに加えて、特定の専門分野・業種における更に高度な専門性を持つ、あるいは、その人の独自の方法が顧客等から認知・評価されている段階	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生活障害をもつ利用者に質の高い介護を実践 介護技術の指導や職種間連携のキーパーソンとなり、チームケアの質を改善
LEVEL 4	一人前の仕事ができることに加え、チーム内でリーダーシップを発揮することができる段階	<ul style="list-style-type: none"> チーム内でのリーダーシップ(例:サービス提供責任者、主任等) 部下に対する指示・指導 本レベル以上が「アセッサー」になれる
LEVEL 3	指示等がなくとも、一人前の仕事ができる段階	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の状態像に応じた介護や他職種の連携等を行うための幅広い領域の知識・技術を習得し、的確な介護を実践
LEVEL 2	一定の指示のもとに、ある程度の仕事ができる段階	<ul style="list-style-type: none"> 一定の範囲で、利用者ニーズや、状況の変化を把握・判断し、それに応じた介護を実践 基本的な知識・技術を活用し、決められた手順等に従って、基本的な介護を実践
LEVEL 1	エントリーレベル 職業準備教育を受けた段階	<ul style="list-style-type: none"> 初任者研修により、在宅・施設で働く上で必要となる基本的な知識・技術を修得

実証事業の概要

介護キャリア段位制度の実証事業には当ホームから「至誠ホームキートス」と「至誠特別養護老人ホーム」が参加しました。参加職員の感想等も踏まえつつ実証事業の目的を意識した視点から振り返ることとします。

〈基本的な流れ〉



この流れの実施に約3か月を要し、項目毎の手順もかなりボリュームがあるものでした。被評価者は実務経験や資格に応じてレベル分けされます。

評価者には介護福祉士の実務3年以上か同等レベルと見なすいくつかの要件が課せられました。特にレベル4の被評価者を評価する場合の評価者は、より上位に位置する介護部門のリーダーが想定されました。

当ホームでは各施設のフロア主任を評価者に、各レベルに該当する職員6名を被評価者として実証事業に取り組みました。

評価項目と方法

評価項目は4大項目・19中項目・222小項目と詳細で、評価方法は小項目毎に「現認」「記録確認」「ヒヤリング」等の方法に加え「評価期間中」「期間中1週間程度」等の期間設定もあり多種多様でした。

評価結果は評価者が事業専用ホームページからダウンロード、記入、アップロードしますが手続きの煩雑さに加えシステムがうまく稼働せず、ずいぶん苦勞をしたようでした。

振り返り（若干の感想）

本評価システムは習得すべき技術・知識が明示され目標が明確になることで、介護職員のやり甲斐に繋がるのが期待されます。反面、多忙を極める介護職、特にリーダーが評価者になれば大きな手間となり、介護現場では負担が大き過ぎると思いました。

内部評価であることから法人間、事業種別間での客観性を担保することは一つの課題と言えるのではないのでしょうか。

次に、既に法人（施設）で実施しているOJT（チューター制度）との関係です。評価のスケールを調整することは検討がいくところかもしれません。しかし、そのことより重要なのは、OJTを実施する体制や環境を整備することだと言えます。当ホームのチューターシステムも20年以上継続していますが、これは新任職員育成制度やシステム運用上の環境整備が大きなファクターとなっています。

介護チームの中でレベル毎にどのようにOJTを進め行くのかは、現場の手間や指導職員確保の問題も伴う大きな課題であると同時に必須条件であるとも言えます。

また、段位と給与基準、格付けのことについても整理をしておく必要があるでしょう。これは、本事業で試用した評価表において介護の技術・知識で計るレベルの上に役職に係るレベル（評価項目）が乗る形になっていることから整理が必要と考えられます。更に法人（施設）間、事業種別間の移動の際にも、職員の不利益を回避する制度である一方で、法人としてどのように整理するかは率直には悩ましいところではないのでしょうか。

総じて、本制度を導入するとすれば、法人としての環境の整備、整理を要す事項への対応が必須条件と思われます。

〈被評価者のレベル一覧〉

*レベル毎の人数は実証事業参加目標人数

資格等		当該資格等取得後 実務経験1年以内	当該資格等取得後 実務経験1～3年	当該資格等取得後 実務経験3年以上
ホームヘルパー2級研修等 (注：当時)		○〈レベル1〉 約200名 (施設、訪問、デイ、グループ)	○〈レベル2①〉 約200名 (施設、訪問、デイ、グループ)	○〈レベル2②〉 約200名 (施設、訪問、デイ、グループ)
介護 福祉士	養成施設卒業生	○〈レベル3〉 約200名 (施設、訪問、デイ、グループ)	○〈レベル3〉 約200名 (施設、訪問、デイ、グループ)	
	実務ルート		○〈レベル3〉 約200名 (施設、訪問、デイ、グループ)	
3年程度以上の実務経験を有する サービス提供責任者、主任等			○〈レベル4〉 約200名 (施設、訪問、デイ、グループ)	

*出典：「介護人材分野におけるキャリア段位制の評価基準に係る実証事業」概要

養護老人ホームの現状と求められる役割

—いまこそセーフティーネットの真価を発揮するとき—

●養護老人ホーム 日の基青老閣 理事・施設長 富山 武司

1 養護老人ホームの現状（その1）

①大都市東京の養護老人ホーム

東社協・高齢者福祉部会養護分科会では、「東京都の養護老人ホームの実態調査」を実施しました（表-1参照）。東京都の養護老人ホーム（都立を除く）は、調査を行った平成23年5月現在で31施設です。同時期の高齢者施設福祉部会会員の特別養護老人ホーム数412施設からすると、10%にも満たないマイナーな施設数となっています。

入所者定員は3,241名で、入所待機者数は800名近くになっています。関東周辺の県に収容されている待機者を含めれば、さらに増加すると考えられます。また、要介護認定者は、入所在籍者数3,227名のうち815名（25.3%）程度となっています。（表-2参照）

なお、ほかに都立が1施設、最近2施設が開設されたので、合計は34施設になっています。

②大都市東京の特殊性

大都市の特殊性として、次の5つがあげられます。

- 住民確保の困難な問題** 大都市は、住民の確保が難しいということです。これはホームレス問題にも関係しており、大都市への人口集中と、農村部の過疎問題が影響しています。
- 身寄りのない独居老人の問題** 大都市には、身寄りのない独居老人が多いということです。この背景には家族制度の崩壊があります。また、人口移動による核家族化も要因です。
- 失業者の問題** 仕事を求めて大都市にやってきたものの、デフレの長期化で失業者が増大し、不況による雇用機会の喪失や雇用形態の変化、フリーターの出現など深刻な失業の問題です。
- 無年金高齢者の問題** 将来的に、無年金高齢者の増大が予想されることです。国民の経済的格差の増大やセーフティーネットの必要性など、生活保護受給者の問題も関係してきます。
- 精神疾患難民の問題** 刺激の多い社会環境から、精神的な問題で社会的保護を必要とする高齢者が多いことがあげられます。精神疾患難民問題も同様です。社会的入院の解消や社会的排除から、精神疾患患者が社会にあふれています。これは新しい社会問題でしょう。

東京都の養護老人ホームの実態調査（H22年4月現在）

<表-1>

1. 施設数	31施設（都立除く）
2. 利用者定員	3,241名
3. 在籍利用者数	3,227名（男性1,410名43.7% 女性1,817名56.3%）
4. 利用平均年齢	男性：77.3歳 女性：82.3歳
5. 障害/疾患を有する利用者（延べ）	障害者数1,421名 精神疾患患者数1,280名
6. 経済状況	生活保護受給者数1,221名 無年金者1,221名
7. 家族状況	配偶者、子供ともに所在不明の利用者1,113名
8. 社会的自立可能性	可能87名（2.7%）指導付可能532名（16.5%） 困難2,436名（75.5%）その他172名（5.3%）

要介護認定の状況 <表-2>

要支援	162名（5.0%）
要介護1	244名（7.6%）
要介護2	231名（7.2%）
要介護3	107名（3.3%）
要介護4	49名（1.5%）
要介護5	22名（0.7%）
合計	815名（25.3%）

障害を有する利用者の内訳 <表-3>

視覚障害	185名（5.7%）
肢体不自由	276名（8.6%）
知的障害	228名（7.1%）
聴覚障害	280名（8.7%）
内部障害	230名（7.1%）
その他障害	222名（6.9%）
合計	1,421名（44.1%）

医師の診断がある利用者の内訳 <表-4>

認知症	493名（15.3%）
統合失調症	310名（9.6%）
神経症	135名（4.2%）
そううつ病	132名（4.1%）
てんかん	31名（1.0%）
アルコール依存症	93名（2.9%）
その他症状	86名（2.7%）
合計	1,280名（39.8%）

単独ケアハウスの課題

● 軽費老人ホーム ケアハウス ハーモニー松葉
生活相談員 小濱絵美子

稲城市にある社会福祉法人博愛会は、入居定員 30 名のケアハウスハーモニー松葉とデイサービスを運営している比較的小規模な法人です。

ハーモニー松葉の職員は施設長 1 名、生活相談員 1 名、介護職員 1 名、事務員 1 名、その他の職員（施設管理、掃除など）3 名となります。勤務体制は施設長を含め 1 日に 2 名から 3 名の出勤となっており、職務を問わず、それぞれが臨機応変に対応できるように求められ、一人ひとりの仕事が複雑化しています。

軽費老人ホームの入居条件は『身体機能の低下等により自立した日常生活を営むことについて不安があると認められる者』となっており、基本的には自立した生活の出来る方を対象としているため、職員配置も少なくなっています。

しかし、身体機能の低下は避けられず、要介護状態の方もいます。

軽費老人ホームは介護保険制度上は在宅扱いとなり、ホームヘルパーやデイサービスなどを利用することが出来ますが、実際には限られた職員で行うことも多々あります。

また、ハーモニー松葉には地域包括支援センターや居宅介護支援事業所が併設されていないため、介護保険サービスの利用は外部の事業所と入居者が個別に契約をしています。施設支援



職員が月 3～4 回 30 分程体操を行っています。それ以外にも自主的に行ったり、地域の体操教室に通っている方もいます。

においては多数の関係事業者、事業所と密に連絡を取り合うことが求められます。

また、食事の提供業務委託と栄養士は委託となっているため、入居者の希望や必要に応じた対応など、本来は施設の栄養士が行う業務も介護職などに求められます。

その他にも看護師の配置が無いこと、基準で決められている委員会などを行うにもすべてを同じメンバーでやらざるを得ないこと、法人内外の行事の運営など少人数小規模ならではの課題が多々ありますが、唯一法人内にあるデイサービス職員も含め皆で助け合い、協力し合いながら運営をしています。

入居者の方々からは「ここを終の棲家にした」「ここに永く住みたい」という声が多くあり、自ら健康面に気をつけ、体操を行ったり、食事に気をつけたりする姿が多く見られます。

入居施設がケアハウス単独であり、重度化すると別の場所へ移らなくてはなくなる可能性もある為か、入居者にとって日々の生活や将来に緊張感が余計にあるように見受けられます。施設が小規模な分、情報の共有がしやすい事や、意思決定が速いことを強みとし、入居者の緊張感を良い方向へ向け、より健康的に長く生活出来る為の支援をしていく事が大切なことと考えています。



平成 13 年にケアハウスを開設し、翌 14 年にデイサービスを開設いたしました。

高齢者施設福祉部会

平成 25 年・26 年度 専門委員長等が決まりました!

2013 年 2 月 13 日(木)に開催された、高齢者施設福祉部会総会において、平成 25 年・26 年度の総務委員長、専門委員長、職員研修統括委員長、人材育成委員長が選任され、下記のとおり決まりました。

(敬称略)

役員名	氏名(所属)
総務委員長	田中雅英(博水の郷)
制度検討委員長	阿部敏哉(武蔵野高齢部門統括施設長)
経営検討委員長	森山善弘(フェローホームズ)
施設管理検討委員長	高橋三行(新町光陽苑)
利用者支援検討委員長	本田佳津子(マイホームはるみ)
職員研修統括委員長	堀 茂(台東)
人材育成委員長	近藤常博(千住桜花苑)
大規模災害対策検討委員長	染谷一美(文京白山の郷)

任期：平成 25 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日

ストレス解消できていますか? 健康問題

●特別養護老人ホーム ひらお苑 管理栄養士 青木昌子

ストレスの原因には、大きく分けて身体的なものと精神的なもの2つがあります。

介護現場では、夜勤や早朝勤務など不規則な勤務や身体介護による肉体的なストレスや、対人関係からの精神的ストレスがあります。施設でメンタルヘルスケアを実施している所も多いかと思いますが、今回はセルフケアについてご紹介します。

一番身近なものは入浴と睡眠です。入浴にリラックス効果があることは科学的にも立証されています。また睡眠で心と体を休めることは効

果のあるストレス解消法です。旅行や散歩、カラオケや運動などにより気持ちをリフレッシュすることもストレス解消になります。また、同じ立場の仲間や友人に相談したり愚痴を聞いてもらうことも一つの方法です。

自分に合ったストレス解消法を見つけ、実践してみたいはかがででしょうか?



未来を切り開くトライさんの

介護最前線

～介護に関わる最新技術や情報を私トライが紹介します！～



自動ラップ式トイレ
「ラップポン・トレッカー2」

第6回 テーマ

「万に備える自動ラップ式トイレ」

●養護老人ホーム白寿荘 施設長補佐 海老沼達雄

～災害時、ライフラインが途絶えたら～

大災害によって生じるライフラインの寸断。長期化する被災生活では様々なストレスが蓄積され、健康被害を訴える高齢者も後を絶たないと言われているよ。

中でもトイレに関する問題は深刻で、その対策は急務といえるね。

断水や下水道処理機能の低下により上下水道が長期間使用出来なくなると、手を洗う流水も不足し、衛生環境が悪化してしまう。このような状況が続くと、下痢・嘔吐・感染症・胃腸炎などが蔓延し、小さいお子様や妊婦の方、高齢者にとっては大変危険な状態に陥ってしまうんだ。

さらに、トイレなどの衛生環境が悪いと、「トイレに行きたくない」あまりに水分摂取を控える高齢者が後を絶たなくなるかもしれないね。たとえ、災害時であっても快適な排泄を行うことが命を守ることににつながるんだよ。

日本セイフティー株式会社が開発した自動ラップ式トイレは、水を使わず、臭いと汚れを閉じ込めるんだって。排泄ごとにラップするためいつも清潔が保てるんだ。お部屋の中に臭いがこもらず安心して使用することができるんだよ。

また、防臭性のフィルムを使用しているため優れた遮断効果があり、臭いや雑菌類を漏らすことなく密封するよ。

～水や電気が無くても使えるトイレ～

これまでの災害でも電気の復旧は3日から1週間ほどかかり、トイレに直結している下水道の復旧には数ヶ月もかかることがあるんだ。

ライフラインが寸断された状況下でも快適なトイレ環境を提供できるよう、「専用バッテリー」や「車用DCケーブル」も使用可能になっているんだって。だから、施設の駐車場の乗用車から電源をとり、室内で自動ラップ式トイレを使用することができるんだよ。

屋外の仮設トイレに頻繁に行けない方、介助が必要な方にとって、室内で安心して使用できるトイレ環境の整備が求められているね。



東日本大震災の宮城県内避難所に設置された自動ラップ式トイレ

取材協力：日本セイフティー株式会社

編集

新緑の素敵
な季節を迎え
ています。介護の現場で
は新任職員の育成や新しい体制づ
くり忙しい日々を送られている
ことと思います。部会広報誌編集
委員会も新メンバーを迎えること
ができました。そして昨年度まで
活躍された編集委員の皆さんお疲
れ様でした。アクティブ福祉は、
本当に多くの会員の皆様のご協力
により発行されていると実感して
います。

後記

消費税の問題や介護保険の負担と給付の見直しなど、高齢者施設を取り巻く環境は、これからも大きく変化していきます。このようなかにも、いつまでも質の高いケアを提供し続けていかなければなりません。アクティブ福祉が二つひとつの施設をつなぐ架け橋」となり、「小さな力が大きな力」になれるよう、これからもますます魅力ある、そして役立つ広報を目指して参りますので、会員の皆さん、多くの読者の皆さん、これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

次号では関東ブロック東京大会や都民フォーラムの特集を組む予定です。

(ニュージホーム 神田 祐)